

広島市佐伯区湯来町 山里体験交流



広島市佐伯区湯来町農山村生活体験推進協議会

〒731-5195 広島市佐伯区海老園二丁目5番28号

TEL082-943-9705 FAX082-943-9718

(事務局: 佐伯区役所地域起こし推進課)

協議会概要

広島市佐伯区湯来町(平成17年4月に広島市佐伯区に編入合併)は、広島市の北西部に位置し、安芸太田町に隣接しています。

湯来町には、広島奥座敷として親しまれてきた「湯来温泉」と湯治信仰の場として古くから栄え、旧広島藩主浅野氏の湯治場でもあった(昭和49年に国重要有形民俗文化財に指定)「湯の山温泉」の2つの温泉があり、緑の山と清らかな水、澄んだ空気に象徴される恵まれた自然資源を有する面積162.87km²、人口約6,000人の農村です。

構成

地元住民・観光協会・観光商工同業組合・商工会・湯来交流体験センター・広島市役所(佐伯区役所)

会長・・・広島市副市長

受入体制

- ・受入可能人数 最大80名
(共同受入れ時 最大400名...安芸太田町・北広島町との3町共同)
- ・受入家庭数 50軒(令和2年3月末現在)
- ・救急救命・食品衛生の研修実施(年1回以上)



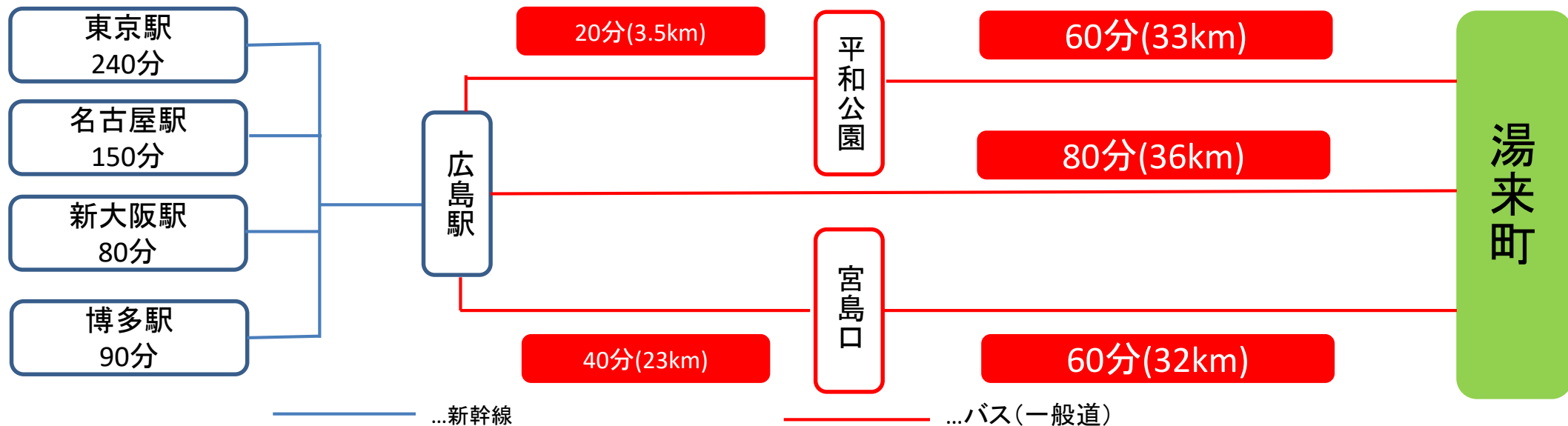
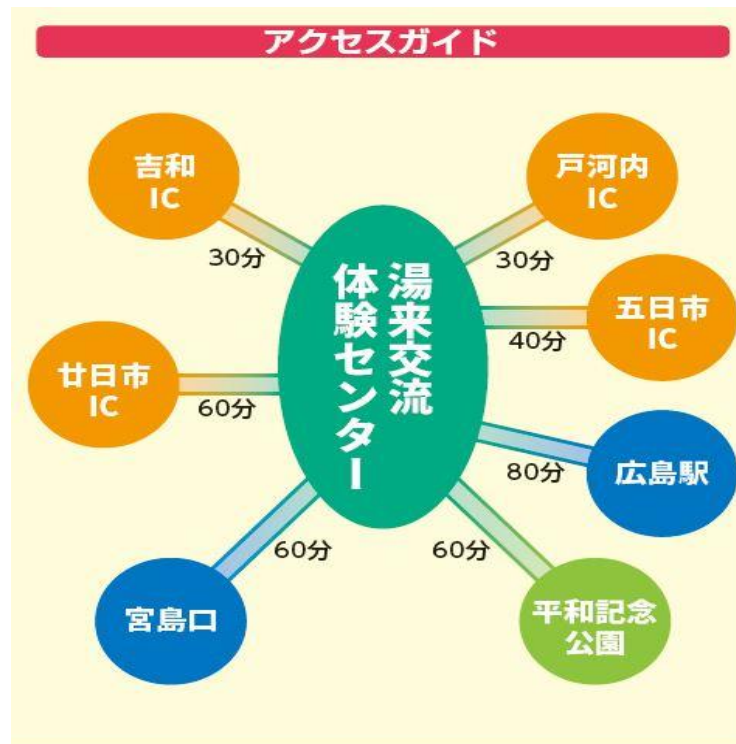
救急救命講習

受入状況(平成29年10月10日協議会設立)

受入年度	国内受入	海外受入	受入人数
平成29年度	なし	2団体	9名
平成30年度	1校(関東1)	1団体	76名
令和元年度	2校(関東1九州1)	2団体	143名

湯来町へのアクセス

平和記念公園(原爆ドーム)・宮島口(厳島神社)の2つの世界遺産のどちらからも一般道で約60分という好立地！



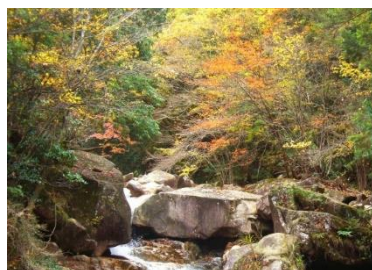
なぜ今、湯来町なのか

①広島市の奥座敷

広島市内でありながら、広島県指定名勝地「石ヶ谷峡」、利き鮎会で4度準グランプリを受賞したアユが獲れる清流「水内川」、広島市最高峰の標高1,050mを誇る「大峯山」など、緑の山と清らかな水、澄んだ空気に象徴される恵まれた自然に溢れています。

トレッキング(受入人数:50人)やシャワークライミング(受入人数:30人)、登山(受入人数:30人)など、自然を活かしたさまざまな体験を行うことができます。

日本では広島市が発祥とされるバームクーヘンを町内の牧場の牛乳を使って生地からつくる体験(受入人数:80人)や、地元産のこんにやく芋からこんにやくを作って食べる体験もできます。(受入人数:60人)



②被爆者の生の声を聴くことができるタイムリミットが迫っています。

広島市へ原爆が投下されてから70年以上経ち、被爆された方々もみなさんご高齢になられています。

湯来町では、地元に住む被爆者の方と協力し、町内にお住まいの被爆者の方の体験を聞くことができる体制を整えています。

体験最大人数:80人



③古からのありのままの暮らしの体験を通した生きる力の育成

広島市佐伯区湯来町の特性である豊かな自然、歴史、文化等の地域資源を活かし、農山村での生活体験を通した生きる力を育てます。
受入最大人数:80人(共同受入最大400人)



湯来町被爆体験講話

● 概要

被爆後70年以上が経過し、被爆者の高齢化が進む中、被爆体験の風化や若い世代を中心とした平和意識の低下・希薄化が強く懸念されています。こうした状況に対応し、未来を核兵器や戦争のない「平和な世界」とするためには、被爆の実相や被爆体験の意味を、次代を担う世代へ継承していくことが重要かつ緊急の課題となっています。

このプログラムでは、クラスごとに部屋を分かれ、湯来町在住の被爆者の方に気軽に質問できるような非常に近い距離で被爆体験を聴いていただけます。

● 期待できる教育効果

▼被爆者から近い距離で直接体験を聴くことで、原爆の悲惨さが身近なものに感じられることにより、平和意識や当事者意識の醸成が図れ、現在世界中で起きている紛争などや平和について主体的に深く学ぶきっかけになります。

▼原爆投下という事実を通して戦争を学ぶことで、お互いの立場の違いを前提とした上で、それをどう理解し解決していくか、導き出していく能力が身に付きます。

● 受入人数等

▼受入人数 最大80名(1～2クラス/1名の講師) ▼時間 2時間 ▼時期 通年

● 講師

湯来原爆被爆者の会(会員139名)は、湯来地区の原爆死没者の慰霊のほか、原爆被爆者の体験発表や、地元図書館との平和を語る会の共催、湯来中学校の生徒による「証言湯来のヒロシマ」の朗読会・竹灯籠への平和の思い書き込みなどの事業を通じ、再び悲劇を繰り返さないため、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向かって活動されています。



西 耕三さん

昭和4年11月11日生まれ(90歳)

原爆投下当時・・・

8月6日午前8時より国鉄(現JR)広島駅舎2階会議室において、朝礼・点呼を受けている最中に被爆、九死に一生を得た。

10日後、水内村(現湯来町)に帰り、1960年水内村慰霊碑建立と同時に被爆者の会に入会、会の持続に務めている。

【湯来原爆被爆者の会 会長】



内藤 紘治さん

昭和16年3月28日生まれ(79歳)

原爆投下当時・・・

私は4歳で、母と姉と3人で市内の皆実町に住んでいた(父は戦地に従軍)。被爆当日は家の前で近所の子どもと一緒に遊んでいて被爆、突然の光と爆風で家は半壊した。母は勤労奉仕で袋町方面に行き、全身やけどを負った。翌7日の午後、母が収容先の進徳女学校校庭で亡くなったため、夜遅く父の実家のある水内村(現湯来町)に、姉と一緒に帰ってきた。

【湯来原爆被爆者の会 副会長】



野地 正人さん

昭和3年5月7日生まれ(91歳)

原爆投下当時・・・

広島師範学校1年(18歳)で原爆投下の前日に山県郡加計町の実家に帰っていた。翌7日に、実家から広島市内(横川から広島駅を經由し東雲)の宿舍まで歩いて帰った。

市内の中心部は一面の焼け野原で、いたるところで被爆死した人を山積みにして焼いていた。

なぜ原爆が投下されたか当時の日本の状況・在り方について語ってきた。

水内川シャワークライミング

● 概要

広島市の水がめ太田川の支流水内川で、自然と人とのかかわりを学びます。水温、水のおい、岩の色、川を泳ぐ魚など、インストラクターと共に川の自然を体感していただけます。

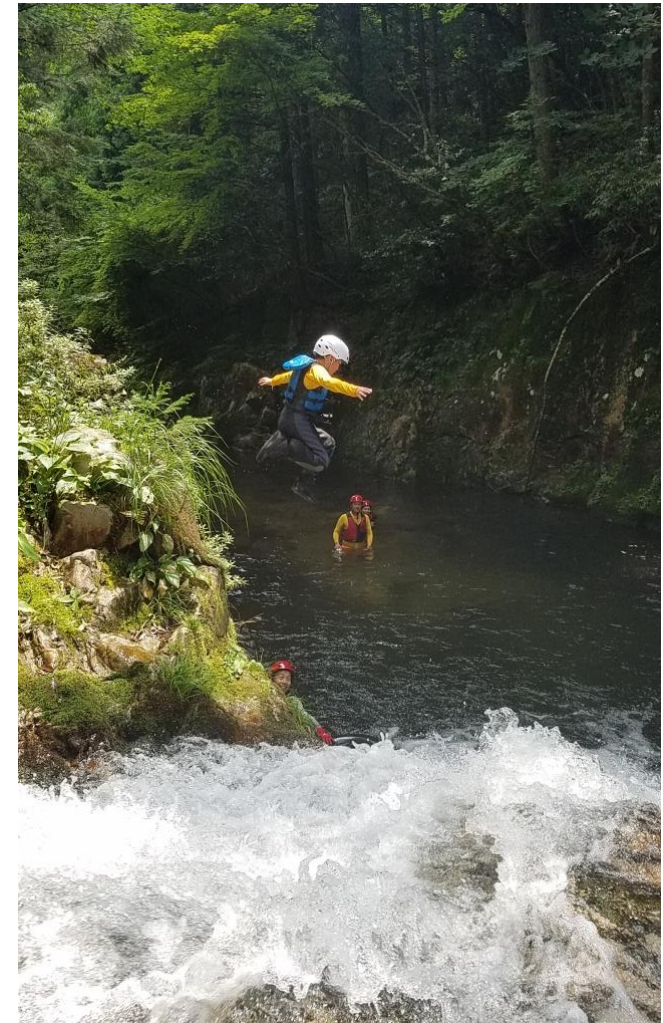
清流水内川の上流で、ゴツゴツの岩場を歩いたり、3mの高さの滝壺へダイブしたり、ロープを使って滝を登ったり、ゴムチューブで滝を滑ったり・・・

全員で協力しながら、助け合って沢の中を泳ぎ、歩きながら目的地を目指します。

● 期待できる教育効果

▼自然を肌で感じるにより、自然の大切さを学び理解し、感謝する心が育ちます。

▼みんなで協力しながら目的地へ向かうことで、チームワーク、コミュニケーション能力、協調性の向上が期待できます。



● 受入人数等

▼受入人数 最大30名
(AM・PM実施で60名)

▼時間 3時間

▼時期 4月～11月上旬



日本の発祥の地で作る・バウムクーヘンづくり

● 概要

ドイツ菓子の王様・バウムクーヘンの日本での発祥は広島市といわれています。

第一次世界大戦のあと、似島(広島市南区)にはドイツ人が捕虜として連れてこられており、1917年に似島にやってきたカール・ユーハイムが、広島県物産陳列館(現在の原爆ドーム)で1919年3月4日に開かれたドイツ作品展示販売会にバウムクーヘンを出品したのがはじまりといわれています。

日本のバウムクーヘン発祥の地・広島市にある湯来町では、地元産の砂谷牛乳(本来の風味や栄養を損なわないパステライズド牛乳)と竹を使って生地からバウムクーヘンを作って食べることができます。



● 期待できる教育効果

- ▼素材から出来上がりまでを自らの手で行うことにより、想像力が養われる。
- ▼身近にあるものの歴史を学ぶことにより、あらゆるものの発祥などに関心を持ち、探究するきっかけになる。
- ▼前後での平和公園(原爆ドーム)の見学や湯来町被爆体験講話などで、より平和学習が深まる。
- ▼協力しながらバウムクーヘンを作り上げることで、チームワーク、コミュニケーション能力、協調性の向上が期待できる。

● 受入人数等

- ▼受入人数 最大80名
- ▼時間 3時間
- ▼時期 通年

● バウムクーヘンとバームクーヘンの違い

バウムクーヘン	バームクーヘン
<ul style="list-style-type: none"> ・1807年ドイツで発祥 ・国立ドイツ菓子協会規定の材料(卵2:小麦粉1:砂糖1:バター1など)・製法で作られたもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・「バウムクーヘン」を大量生産できるように日本独自で発展したもの ・材料や作り方は自由

こんにやくづくり

● 概要

こんにやくは日本の食卓に欠かせない食材ですが、どうやってつくられているか、ご存知ですか。湯来町では、昔から林業のかたわらでこんにやく芋を栽培し、芋からこんにやくを作り、家庭で親しんできました。

湯来町の地元の方は、生のままスライスして刺身で食べるのが一番美味しいと言います。

このプログラムでは、こんにやくづくり名人に教わりながら、出来立てのこんにやくを味わうことができます。

● 期待できる教育効果

▼食に関する経験は、食育です。

▼素材から出来上がりまでを自らの手で行うことにより、想像力が養われます。

▼身近なものの成り立ちを知ることで、ものづくりへの興味のきっかけになります。

▼産地の方と共同作業することで、歴史や文化を知り、研究へつながるきっかけになります。

▼協力しながらこんにやくを作り上げることで、チームワーク、コミュニケーション能力、協調性の向上が期待できます。

● 受入人数等

▼受入人数 最大60名

▼時間 3時間

▼時期 通年



話題のオオサンショウウオこんにやくをつくる体験もできます！

受入人数 最大50名

時間 3時間



本部宿舎



広島市国民宿舎 湯来ロッジ

住所: 広島市佐伯区湯来町大字多田2563-1
電話: 0829-85-0111

施設

客室数: 和室12 洋室9

定員: 80人

その他: レストラン、売店、多目的ホール、広間ほか

温泉

天然温泉・露天風呂完備

露天風呂では絵画のような景色が広がります。

水内川の景観を眺めながら、ゆったりと至福の時間をお楽しみください。

好立地

- ① 全ての受入家庭へ 20分圏内
- ② 受入中の事務局本部から5分

予約について

予約可能時期までは、当協議会が御社の希望に基づき本部宿舎を押さえ、予約可能時期後に御社から正式なご予約をしていただきます。



新学習指導要領改訂に対応して 「主体的・対話的で深い学び」のために

新学習指導要領の改訂で従来からの「生きる力を育む」に加えて「主体的・対話的で深い学び」の視点から特別教育活動、とりわけ修学旅行等で、その実現に向けての期待が高まります。主体的に事前、事後学習を行うことに加え、現場での対話的な体験学習により狙いの深い学びとなります。旅行先での学習のテーマは地域事情に合致したものでなくてはなりません。地域の魅力と課題を示すことにより主体的なテーマの選択が可能となります。

魅力

①広島市の奥座敷

市内唯一の温泉や牧場のほか、県指定名勝地「石ヶ谷峡」、清流「水内川」、市最高峰1,050mの「大峯山」、林野庁「森の巨人たち百選」県唯一選定の「四本杉」、大小27の滝、ゲンジ・ヘイケ・ヒメの3種が自生する全国的にも珍しいホタルの棲息地であるなど、広島市内でありながら豊かな自然に溢れています。

②多彩な食

水内川のアユ、ほんもろこ、チョウザメ・キャビア、地元の牛乳やその牛乳を使って作るミルクジャムやジェラート、ジビエ、こんにゃく、タラの芽、巻柿など多種多彩な食があります。飲食店も町内に多数あります。

③2つの世界遺産から近い好立地

原爆ドーム・宮島の2つの世界遺産のどちらからも、一般道で約60分という好立地。平和学習や歴史学習と民泊を組み合わせる行程が組みやすいです。

課題

①湯来といえばこれ！というものが無い

自然や温泉、食など、豊富な資源があるのに、どれも活かしきれていません。「湯来にこんなものがある」ということが認知されていません。

②里山の維持管理・整備が困難

過疎・高齢化などにより、登山道や溪谷の道などの維持・整備が行き届かず、観光資源としての活用が難しくなっているところもあります。

③観光客数の減少

かつては人気の観光地として栄えにぎわいがありましたが、年々観光客も減り、活気がなくなっています。町内に数十軒あった旅館もいまでは2軒に。

「主体的・対話的で深い学び」体験プログラム 名勝・石ヶ谷峡の魅力と課題探究



(カラーホイール、アイコン使用申請中)



● 概要・目的

広島県名勝に指定されている石ヶ谷峡は、「燈明滝」「竜頭の滝」など数多くの小滝や、南無阿弥陀仏と彫り込まれた「名号岩」をはじめ、「兜岩」や「コウモリ岩」、「屏風岩」といった奇岩が数多くみられる美しい渓谷です。

ところが、知名度があまり高くないため訪れる人も少なく、落葉や捨てられたごみが溜まっているなど維持管理が行き届いていないところもあります。

このプログラムは、トレッキングを通じて石ヶ谷峡の魅力や課題を実感・新発見してもらい、魅力の効果的な発信方法や、景観維持の方法を考え、石ヶ谷峡を人が集まる名所にしていくにはどうしたら良いのか、ともに考え、探究することで、自然の大切さを学び、陸の豊かさを守り、気候変動の具体的な対策を考える一助とするとともに、自分の身近な地域の魅力や問題点を考えるきっかけにすることにより、住み続けられるまちづくりに向けたスキルを養うことを目的としたものです。

● 教育効果

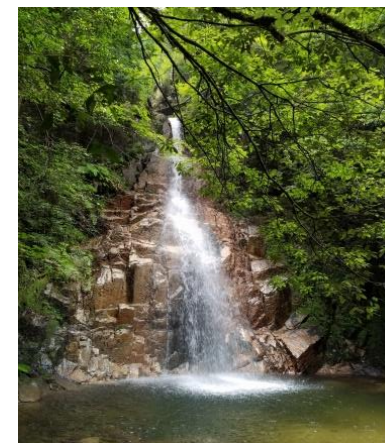
- ▼ 自然を肌で感じることで、自然の大切さを学び、感謝する心が育ちます。
- ▼ 地域の魅力や課題を自分で考えることにより、住み続けられるまちづくりに向けた観察力・洞察力が身に付きます。
- ▼ 魅力の発信方法や課題の解決策を考えることで発想力・問題解決能力が身に付きます。
- ▼ 自然豊かな緑を守る方法を考えることにより、陸の豊かさを守り、気候変動の具体的な対策を考えるきっかけになります。
- ▼ グループで協力し結論を導き出すことでチームワークの醸成が図れます。

● プログラム一連の流れ

①事前学習	学校で事前調査、現地で調べたいことをまとめておく
②現地説明	担当者から現地で概要等の説明
③調査・体験	インストラクターの指導のもとで現地体験や実態調査
④発表	学習した成果のまとめや問題解決について生徒から発表

● 受入人数等

- ▼ 受入人数 50名
- ▼ 時間 4時間
- ▼ 時期 3月～12月



SDGs可能性プログラムリスト

No.	プログラム例	実施時期	受入可能人数
1	水内川シャワークライミング	4月～11月	30人
2	森林間伐体験	4月～11月	30人
3	酪農体験(牛舎清掃・餌やり等)	通年	80人
4	湯来町被爆体験講話	通年	80人

